９４年１０月８日～１０日、ＫＹＣウィークの一環としてＪ－２４カップレースが行なわれました。参加艇は２３艇と、全日本選手権を除けばおそらく大阪湾はじまって以来の艇数が集まりました。

レースの海上運営は原さんの指揮のもと、レース委員長の古川さんもまじえ、事前に参加艇の意見も聴いていただくなど、公平かつきちんとしたレースを楽しませていただきました。同一海面ではドラゴンクラスの全日本選手権が行なわれ、Ｊ／２４のスタート１０分後にドラゴンがスタートし、両フリートがレース中にミートすることもありましたが、特に混乱もなく、私達にとってはむしろ楽しいレースとなりました。

今回は残念ながら強豪クラリスブルー、イェローチームが、ビッグボートカップの運営のため事実上欠場しましたが、９３年（９４年も）全日本優勝のシェスタローザ、そしてコスモスの両艇の参加がありました。またワールドで常にシングルに入っているアンソンも、ジェロニモのトリマーとして来日しました。

ＫＹＣからは実力急上昇のKOBE M&D（土井収二オーナー）をはじめ、TOGO（山田東吾オーナー）、MAKI JR（小田泰義オーナー）、そして私達のWIND SAILORが参加しました。

私達のチームでは普段は私がヘルムをとるのですが、今回はトリマーの阿島とポジションを交代しました。トリマーはボートスピードに関わりながら、きょろきょろと周りも見れるので、私にとっても新鮮かつ楽しいレースとなりました。

以下は私事で恐縮ですが、今回のレースを運営して下さいました皆様、楽しいレースを本当にありがとうございました。

第１レース。スタートで加速のタイミングを逸し、周囲の艇に殺され止むなくタック。ダッキングしていくと何と真正面に本部船があった。このフネのスターンは通れないから、再びタック。阿島のリクエストに答えて本部船のバウ先でまたもやタック。右海面に向かう。この間本部船からは珍しいものを見る視線、とりわけ原さんのスマイルを感じてしまう。背中を振り返ればフリートはもはや取り返しがつかないほど前を、左に延ばしている。「おおっ、ケツや！」という思いが頭をよぎるが、口では「スピードがあるから、イチカミまでにまん中ぐらいまで上がるで・・・」とうそぶく。
そして・・・風は右に振れ・・・何と上マークでは２番回航だった。そこから追い上げてとうとう１位でフィニッシュ。フィニッシュした時に原さんから「レースコースはどうでしたか？」と聞かれる。もちろん最高です。

第２レースはKOBE M&Dにしっかりカバーされたまま３位でフィニッシュ。しかし初日の２レースを終ってみれば通算トップ。もう何の反省も無く、皆でビールを飲みに行きました。

第３レース。ようやくスタートのタイミングが合いだしイチカミは５位ぐらいで回航。ここで欲を出して、ニカミは右海面を狙う。ところが行けども行けどもリフトしか来ない。タックを返したいが、フリートに吸い込まれるのでそのまま右に延ばす。昨日は天才に見えた阿島も、今日は単に博才も尽きた男。とうとう右のレイラインあたりまで来てしまって苦渋に満ちたタック。１５番あたりまで落ちてしまった。こうなるとフレッシュウィンドは取れないは、フリート中盤の混戦には巻き込まれるで、先頭集団との差は広がる一方。ジェロニモ・アンソンのあとをシェスタ・ローザ、コスモスがおそろい

のスピンをあげ、はるか彼方を走っていく。こちらはタックの応酬をしながらなだれ込むようにフィニッシュして結局１１位。

第４レース。３レースを終えて３位とは1.25ポイント差、かろうじての２位。２位は何としても守りたいという思いで、チームはいつになく寡黙にレース海面に向かう。スタート前に「ウーン右かなぁ。右やろー。」・・・「ああっ、左もええんちゃうかぁー。どないしょー」とやっていると、シェスタもスタートラインを流してくる。見れば４人もの人間がデッキに仁王立ちになって海面を見ている。さらに彼らは僕らと違って、おそろいのシブいウェアなのだ。

スタート１回目はゼネリコ。２回目のスタートはドラゴンのスタートを控えているため、帆走指示書どおりブラック・フラッグが上がる。「慎重にいこな」と言っているのに、阿島はMAKI JRと競り合いながらきわどいスタートをきる。そして号笛とともにＸ旗が上がった。「大丈夫かぁ？」とバウの橋本に問うと、しばし首をかしげて深刻な顔をしている。そしてくよくよしても仕方がないという感じで「大丈夫！」。

そのまま５分ぐらい走って、漸くカミ側からスタートした１艇をノボリ殺す。「タックできるで。どないする？」と言っていると、「前通るよッ！」と声が掛かる。シモ先行していたシェスタ・コスモスだ。「いいよッ！」と阿島。これでふっきれて左に行く。北東の風の中、左のレイライン近くまで延ばして防波堤ぞいのヘッダーを取りに行く。そしてこのシリーズ初めてこのおいしい風の中でタックして、上マーク僅差ながらトップ回航！。そこで阿島何を思ったか即ジャイブ。後続集団は防波堤ぞいの風に乗ってそのまま西に延ばしていく。ああ抜かれたかと思いきや、風は大きく北に振れて下マークではダン突のトップ。「やっぱりこいつには博才があるんやろか・・」と思わしめる１位でした。